



京都府丹後保健所HPバナー

No.3

新型インフルエンザ NEWS

毎月12日発行

～毎月12日(インフル)は、新型インフルエンザを考える日～

編集／発行 (京都府丹後広域振興局)
新型インフルエンザ対策ワーキング会議

丹後保健所 検索

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)

保健室 感染症・難病担当

〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855

TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368

www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

もくじ

- ・丹後大仏の歴史.....①
- ・スペインかぜから学ぶ(特集)其の一.....①②
- ・用語解説(ワクチン).....②

丹後大仏の歴史



伊根町筒川に「丹後大仏(筒川大仏)」という、石造の阿弥陀如来像があります。

大正8年、全焼した筒川製糸工場を再建した慰労として、従業員116名が東京観光したところ、当時流行していたスペインかぜに感染し、帰郷後、従業員42人が死亡、村内にも多くの感染者を出しました。

丹後大仏は、その慰霊のために建立されました。現在も地元の住民が管理し、毎年4月8日に慰霊祭が行われています。

このような悲惨な歴史を繰り返さないように、過去の経験に学ぶとともに、いま準備できることに取り組みたいものです。

流行っていると知ってさえいれば...



スペインかぜから学ぶ (特集) 其の一



1918年 アメリカ 野戦病院

戦争や災害、感染症などすべての死亡原因の中で最も多くの人を短期間で死に至らしめたのが、スペインかぜです。

今から90年前の1918年(大正7年)から翌19年にかけて、全世界的に大流行し、スペインでの流行が大きく報じられたことから、スペインかぜと呼ばれるようになったと言われています。

スペインかぜの最初の流行は、1918年3月米国カンザス州の米軍基地で、その後、5月末にフランスのマルセイユで確認され15日間で第一次世界大戦中の兵士の間で蔓延し、多数の死者が出ました。その後、世界中に広がり、4000～5000万人の死者が出たとされています。

日本では、1918年(大正7年)の秋頃から1年半にわたり、各地で流行を繰り返し、約38万の死者が出たとされています。関東大震災の死者が約14万人、阪神・淡路大震災の死者が約6500人からも、その被害の大きさがわかります。

スペインかぜは、H1N1型の弱毒性ウイルスで、感染率は40%以上、その致死率は2%前後でした。死者は、若い世代に多く、これは免疫系が過剰に反応するサイトカイン・ストームにより、重症肺炎や多臓器不全を起こしたことが、原因と言われています。

今、発生を懸念されている新型インフルエンザは、H5N1型の強毒性ウイルスで、人口密度の高い現代では感染率も高くなり、航空機など交通機関の発達から短期間で全世界に大流行し、スペインかぜと同様サイトカイン・ストームにより、若くて元気な若年層の死亡者が多くなることも予想されます。

新型インフルエンザの被害を最小限に抑えるため、全ての人々が、スペインかぜを教訓に最善の備えをしておく必要があります。

防ば 豫め 感き 流か

(厚生省事務内)

四、 含嗽 ぜよ — 朝な夕なに	三、 豫め 注射を — 朝な夕なに	二、 鼻口を 覆へ — 身の爲にも	一、 近寄る な — 咳する人に
------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------------

1922年(大正11年)
内務省衛生局 著
流行性感冒

スペインかぜと新型インフルエンザ対比表

項目	スペインかぜ	新型インフルエンザ	説明
発生年	1918年(大正7年)	近年《予想》	・航空機などの発達した現代では、多くの人や動物、食料が世界中を行き交っています。同時にウイルスも移動することから、短期間で世界中に伝播します。
輸送手段	蒸気船・蒸気機関車	航空機・自動車	
伝播様式	群として移動	同時多発《予想》	
伝播期間	7~11ヶ月	4~7日《予想》	
世界人口	18億人	66億人	・新型インフルエンザの日本の被害想定は、スペインかぜのH1N1型(弱毒性)を参考にしています。新型インフルエンザがH5N1型(強毒性)であると想定すると被害は増大します。ちなみにアメリカでは、感染率30%、その致死率20%と想定しています。
感染者数(世界)	5~8億人	16~30億人《予想》	
患者数(世界)	2~5億人	5~16億人《予想》	
死亡者数(世界)	4000~5000万人	2000万~5億人《予想》	
日本人口	5500万人	1億2800万人	・人口密度の高い現代は、感染率が高くなることが予想されます。
患者数(日本)	2300万人	3200万人《予想》	
死亡者数(日本)	38万人	64万人《予想》	
病原体	H1N1型(弱毒性)	不明	・ワクチンや抗インフルエンザ薬の対策がうまくいかなければ、被害が増大します。
感染率(日本)	人口の40%以上	人口の25%《予想》	
致死率(日本)	人口の0.5%前後	人口の0.5%《予想》	・新型インフルエンザも免疫系の過剰反応によるサイトカイン・ストームにより、若い世代の死者が多くでることが予想されます。
死因	肺炎、気管支炎など	多臓器不全など《予想》	
死亡者層の特徴	若年~中年層多い	若年~中年層多い《予想》	

<スペインかぜから学ぶ(特集)其の一の参考文献等>

- ・「H5N1型ウイルス襲来 新型インフルエンザから家族を守れ！」 岡田晴恵
- ・「新型インフルエンザ・クライシス」 外岡立人
- ・「最強ウイルス 新型インフルエンザの恐怖」 NHK「最強ウイルス」プロジェクト
- ・我が国の被害想定「新型インフルエンザ対策行動計画」 新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する関係省庁対策会議

(用語解説) ワクチン

新型インフルエンザに対して、通常のインフルエンザ予防接種ワクチンでは、ウイルスの種類が異なり、効果が期待できないため、現在、次の2種類のワクチンが準備されています。ワクチンを接種すれば、発症、重症化、死亡の可能性を大幅に減らすことが期待できます。

区分	プレパンデミックワクチン (流行前ワクチン)	パンデミックワクチン (流行後ワクチン)
内容	現在トリ-ヒト感染をおこしている鳥インフルエンザ(H5N1)ウイルスを基に製造されたワクチン。有効性は未確立。	ヒト-ヒト感染が発生した時点で、そのウイルスを基に製造されるワクチン。効果は高いが、製造に半年必要。
実施時期	今年度6400人を治検し、来年度から1000万人の接種について検討予定	製造できた時点(新型インフルエンザウイルス確定後、半年から1年)
対象者	医療従事者・社会機能維持者等	全国民
実施主体	都道府県	市町村
接種方法	集団接種	
接種場所	保健所、保健センター、医療機関(事業所等で設備を有する場合は事業所内も可能)	

第3のワクチン



~知識のワクチン~

新型インフルエンザについて、正しい知識と正確な情報を収集し、発生時にパニックにならないで、冷静な予防行動ができることはとても重要なことです。今すぐ、誰でも使える重要で有効なワクチンです。

新型インフルエンザNEWS No.4
(平成20年9月12日発行)

- ・トピックス
- ・スペインかぜから学ぶ(特集)其の二
- ・用語解説(発熱外来)

次号